

# 2021年度 緑区自立支援連絡協議会 活動報告

## 1 活動の柱

昨年の緊急事態宣言から1年が経過する中、先行きが見えない状況ですが、協議会の活動は感染症対策のため、オンラインを活用しながら取り組んでいきます。

会議や集会のような形で協議会活動を開催する際には、国・県・市からの通達を基に最大限の感染症対策を講じた上で開催してまいります。

1. 地域課題への取り組みを強化するため、「課題別の部会」を目指し部会の再編成について検討し、強度行動障害のある方への支援について、支援者・介護者のスキルアップ、地域で支える仕組み作りに取り組めます。また、東日本大震災から10年の節目の年、3か年計画で取り組んできた防災部会の取り組みのまとめを行います。

課題別の部会への再編は、来年度を目標に、2007年から積み重ねてきた経過を大事にしながら、協議会の組織体制について検討します。

2. 研修会などの大人数での集まりに制約が生じている状況ではありますが、引き続き地域の支援力アップの為に、ウェブ会議を活用しながら「ネットワークづくり」に取り組めます。

- ① 部会活動を中心に、事業所同士の交流や、部会の枠を超えた横のつながり作りを目指します。
- ② 当事者参加、構成員のネットワークづくりを引き続き進め、当事者や家族、また事業所も孤立する事がないような取り組みを勧めます。
- ③ 障害分野以外の関係団体との連携や情報共有、ネットワークづくりに取り組みます。

3. 障害がある人もない人も、誰もが住みやすく、お互いに支えあえる街づくりに取り組みます

初めての取り組みとして、オンライン等の「集まらない」形で「障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい」を企画します。今は、一堂に会して交流することができない状況ですが、つながりを切らさないために「芸術」をキーワードに交流出来る企画に取り組めます。

## 2021年度の協議会日程

	事務局会議・運営委員会他	取り組み
4月	事務局会議（8日） 中止	コロナ対応のため5/19に延期
5月	事務局会議（19日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会の活動報告・活動計画の集約</li> <li>協議会の年度活動計画案・予算案作成</li> <li>全体会の開催準備</li> </ul>
	運営委員会（27日）	
6月	●全体会 書面決議	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動報告、活動計画、決算予算、会長・副会長選任</li> </ul>
7月	事務局会議（29日）	
8月	運営委員会（26日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会の再編についての提案</li> </ul>
10月	事務局会議（14日）	
11月	運営委員会（25日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会から集約した地域課題の議論。</li> </ul>
1月	事務局会議（13日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>南ブロックの共通の地域課題の討議（障害者支援課認定支払係、4区（緑・南・天白・瑞穂）の区役所・支所・保健C・基幹C）</li> <li>各区から地域課題の文書を市に提出</li> </ul>
	南ブロック連絡会（21日）	
2月	★第10回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい	みどりアートフェスティバル 会場展示 2/1～2/9 動画配信 2/1～2/28
	運営委員会（24日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>つどいの振り返り</li> <li>地域生活支援拠点事業所の報告、説明（ビデオ）</li> </ul>

- ・南ブロック会議・・・年6回（6月、8月、10月、12月、2月）
- ・名古屋市自立支援連絡会 年3回 ①8月 ②12月 ③3月

## 2021年度 日中居住部会活動報告

2021年度もコロナ禍で、対面会議は難しい中での活動になった。

◇定例会は、「要望・地域課題をもとにすすめる」として、「虐待を考える」「地域課題を考える」「GHの現状と課題」のテーマで定例会を開催、事業所・支援者の更なるスキルアップと、交流・連携を図った。また、前後に運営委員会を開催し準備

部会の再編・活性化としては、①仕事関係のプロジェクト＝JOB みどりで「ビジネスマナー講座」の開催と②「GHの現状と課題」の定例会を機にグループホーム交流会を展望している。

◇定例会 日時:第3水曜日午後1～3時(活動アンケート後13:30～) リモート開催

	参加	内容
第1回 5/19	19事業所 23名	虐待研修 part1 グループホームの虐待死亡事件から見えてくるもの 愛光園の事件から、グループワーク、年間予定・活動計画確認、拠点実績報告
第2回 7/14	25事業所 30名	虐待研修 part2 障害者虐待について、知っておくべき知識と対応 講師 名古屋市障害者虐待相談センター +グループワーク コロナアンケート18件・活動アンケート17件
第3回 9/15	15事業所 16名	地域課題を考える(休日・GH情報等) 1分スピーチ、部会の再編案提案 2つのアンケート報告、協議会(つどい・防災)、job みどり
第4回 11/18	11事業所 30名	虐待研修 part3 優生思想と障害者差別を考える 講師小森淳子氏
第5回 2/16	※16事業 所(日中) 17名	グループホームの現状と課題 GHで出た課題を解消できる「連絡会」があると良い。またGHの事は日中部会だけでなく、他との連携を取ることが多い為、他部会と横断交流できたら良い。

◇部会の再編・あり方

①JOB みどり「仕事関係のプロジェクト」の推進

ビジネスマナー講座について

第1回 4/28-11 団体 15名「一から学ぶ名刺交換」(徳重支所とリモート)

第2回 6/23-13 団体 16名「ビジネスマール・アポ取りの基本」(以下リモート開催)

第3回 8/25-14 団体 16名「電話対応・訪問時あいさつの仕方」

第4回 10/27-10 団体 13名「コーチングスキルと今後の福祉職への期待」

参加 延べ約60名 講師 ウエルジョブなごや 所長梅村・高辻様に、毎回資料作成いただく。

感想 コロナ禍リモート形式。それぞれの経験年数に合わせて学びや振り返りの機会になった。

②グループホーム連絡会 準備会 2/14と第5回定例会をきっかけとして次年度の在り方を考える

◇自立支援協議会への派遣

・防災部会 小濱・つどい 吉安 2月実施

◇その他

(1)区・支所の授産製品販売(主催:緑区福祉課)福祉の店冊子改定

(2)イオン大高「みどり福祉の店」(共催:緑区福祉課・協議会)グリーンコートからブルーコートへ

(3)ホームページ事業所紹介の随時更新

## 2021年度 居宅部会活動報告

### ◇障害児者に関わるヘルパーさんのためのサロン

今年度は7月に身体、知的障害を学ぶテーマで学習会を企画したが、希望が1事業所のみで中止。その後のサロン活動は活動自体を再考せざるを得なくなり、実施しませんでした。

運営委員会 5/21、6/25、7/30、9/8、1/17 実施

コロナの関係で全て ZOOM で実施。

9/8の時にはあいぼ:鈴木さんにも参加していただき、意見をいただいた。

### ◇定例会

2021年 10月 18日(月) 13時30分~15時 ZOOM

「障害の基本の知識を学ぶ」

話題提供者 株式会社野の花舎 代表取締役社長 加藤嘉夫氏

NPO 法人グリーンハート 多機能型事業所わかた 管理者 野浪徳一氏

参加者 28名

ヘルパー事業所以外に他の部会にも声をかけた

### ◇緑区自立支援連絡協議会への派遣

- ・防災部会 おおばこ島田さん
- ・つどい 派遣なし
- ・運営委員会 緑区介護保険事業所 小田

### ◇その他

- ・8月に居宅介護支援に関わるアンケートを行い、回答事業所6事業所、回答率0.8%という結果に終わった。
- ・他の部会の定例会の情報を流した。数か所居宅事業所の参加があった模様。

### ◇来年度に向けて

- ・障害を対象とした居宅介護事業所への部会参加の呼びかけに限界が来ている。介護保険分野での居宅介護の研修会には参加しているため、高齢分野やケアマネとの協同による部会の運営を模索し、地域生活を支えるために必要な研修会、交流会を部会を超えて実施していく1年としたい。

# 2021 年度 児童部会活動報告

◇2021 年度 定例会

	日にち	内容	場所
第 1 回	4 月 23 日 (金)	学習会 R3 年度報酬改定 事業所交流 講師 東部療育センターぽけっと 加藤淳氏 参加人数 20 名 (17 団体)	ZOOM
第 2 回	5 月 21 日 (水)	学習会 子どもから大人への変化 ～福祉サービスを学ぶ～ ① 障害福祉と就労系サービスについて 講師 リハスワーク名古屋緑 日比翔太氏 ② 子どもから大人への支援へ 講師 相談支援事業所春風 小山洋人氏 参加人数 21 名 (17 団体)	ZOOM
第 3 回	7 月 9 日 (金)	研修会 子どもの虐待について 講師 あげぼの学園 中山浩志氏 グループワーク 虐待防止のために取り組むこと 参加人数 24 名 (20 団体)	ZOOM
第 4 回	9 月 17 日 (水)	地域課題 グループ交流 緑区自立支援連絡協議会再編について 参加人数 19 名 (17 団体)	ZOOM
第 5 回	11 月 10 日 (水)	交流会 地域課題について ① 障害の理解について ② 障害の子どものショートについて 参加人数 18 名 (16 団体)	ZOOM
中止	12 月 22 日	みどりっこひろば (予定)	区役所講堂
第 6 回	1 月 14 日 (金)	事業所紹介 グループ交流 参加人数 28 名 (23 団体)	徳重支所 第 1、2 会議室
第 7 回	3 月 11 日 (金)	次年度の組織について グループ交流 参加人数 20 名 (16 団体)	ZOOM

## 2、令和 2 年度のふりかえり

- 1) 障害児を支える行政機関、教育機関と連携し、地域で子ども・家族を支える仕組みをつくる。  
→ 児童部会の編成に向けての説明を行った。地域を巻き込んだ仕組みづくりを進めていく。
- 2) 「子どもから大人へ～必要となる支援について」をテーマに、他部会（日中居住部会、相談部会等）と合同の学習会、研修を行う。→ 研修会は他部会に案内をし、多くの方々と交流ができた。
- 3) 緑区の地域課題の整理を行う。→ 地域課題の整理を行うが、毎年フィードバックできていない。
- 4) AED 講習 → 名古屋市の研修でも行われており、感染症予防の観点からも中止とした。

## 精神部会 2021 年度活動報告

### 【今年度の取り組み】

- ・勉強会は「つながらない人の支援」というテーマで、オンラインの事例検討会を行った
- ・交流会を行い、精神障害者の住まいの課題、なかでもグループホームについての理解を深めた
- ・コロナ禍での精神科病院との連携について理解を深めた

●定例会：6回（5/10、7/20、9/21、11/16、1/18、3/22）

勉強会：1回（5/10） 交流会：1回（6/17） 講演会：1回（1/8）

○運営委員会：4回（5/27、8/26、11/25、2/24）

○勉強会実行委員会：7回（2019年度中に3回、2021年度は4回）

○講演会実行委員会：8回

2021 年	
5/10	第1回精神部会定例会（オンライン・8名参加） 勉強会「つながらない人への支援を考える」（オンライン・21名参加）
7/8	精神部会企画交流会 グループホーム日向にて 計6名：世話人2名、管理者1名、精神部会3名
7/20	第2回精神部会定例会（オンライン・8名参加）
9/21	第3回精神部会定例会（オンライン・12名参加）部会編成について
11/16	第4回精神部会定例会（オンライン・9名参加）地域課題について
2022 年	
1/8	精神部会企画講演会「コロナ禍に模索する精神科病院との連携」 （オンライン・35名参加）
1/18	第5回精神部会定例会（オンライン・7名参加）
3/22	第6回精神部会定例会（オンライン・8名参加） ・次期運営委員選出 ・次年度定例会のやり方について

### 【定例会 参加事業所】

ウル 相談支援事業所 me 多機能型事業所わかた 地域活動支援センターしかやま 地域活動支援センターベーすはうす はたらく工房 鳴海ひまわりクリニック メンタルクリニックみなみ ゆたか希望の家相談支援事業所 ワークセンターメイプル 緑区障害者基幹相談支援センター

## 2021 年度緑区自立支援連絡協議会相談部会活動報告

日程(各 10:00～11:50)	内容	場所
4月19日(月)	新年度顔合わせ、2021 年度活動内容について・運営について、報酬改定について	オンライン 参加者 23 名
5月17日(月)	R2 年度報酬改定、名古屋市集団指導を受け、請求を行って疑問点などを交流。	オンライン 参加者 20 名
6月21日(月)	報酬改定について 7月29日ケアマネと相談支援専門員の交流会に向けて	オンライン 参加者 20 名
7月29日(木)	PM ケアマネと相談支援専門員との交流会	オンライン、いきいきセンターと合同開催
8月16日(月)	7月29日の振り返り 障害児の支援について学習会に向けて	オンライン 参加者 19 名
9月21日(火)	障害児の支援にかかわって、児童相談所、民生子ども課、子ども応援委員会の役割とつながり方について	オンライン 参加者 25 名
10月18日(月)	グループ討議：地域課題について	オンライン 参加者 22 名
11月15日(月)	地域課題のまとめ 児童のケースを取り上げて学び合う。 春風小山氏、ひなゆり木下氏、そよ風近藤氏	オンライン 参加者 19 名
12月20日(月)	子どもの性にかかわる学習会 講師：たいよう介護ステーション寺部佳代子氏	オンライン 参加者 27 名(相談員、子ども応援委員会、放課後デイサービス職員)
1月17日(月)	地域課題について、3 つの課題を提出していく	オンライン 参加者 21 名
2月21日(月)	困難事例についてケース検討会 なごみ：水野氏・林田氏 自立支援協議会再編について	オンライン 参加者 17 名
3月22日(月)	次年度の運営について	オンライン 参加者 21 名

\* 構成員：季楽指定特定相談支援事業所春風、相談支援事業所ひととま、相談支援事業所ひなゆり、もみじ相談支援事業所、相談支援センターてらす、相談支援ふわふわ、相談支援ぼぼ、相談支援カモミール、ゆたか希望の家相談支援事業所、相談支援よすが、相談支援センターなごみ、相談支援事業所 me、相談支援ハピネス、相談支援まり、南部地域療育センターそよかぜ、緑区役所障害福祉課、支所区民福祉課福祉窓口、保健センター、緑区障害者基幹相談支援センター \* 定例会の内容：相談支援事業所・相談支援専門員の交流、事例検討会・学習会

## 2021年度 強行部会 活動報告

今年度より、自閉症や強度行動障害児者を地域で支えることを目的とした強行部会を立ち上げました。各部会から参加していただくことができ、支援の輪を広げることができました。専門的な知識を学び、障害の特性の理解を深めることができました。

### ◇運営委員会

4/23(金)、5/21(金)、8/20(金)、11/26(金)、1/28(金)

### ◇定例会

	日にち	内容	方法	参加者
第1回	6/11(金) 13~15	研修会 「自閉症支援がうまくいかない…最初にやることは？」 講師 あいぼ奥山氏	ZOOM	28事業所 38名
第2回	9/24(金) 13~15	実践報告・交流会 ① 放課後等デイサービスにおける児童の事例 報告者 あいぼ奥山氏 ② 生活介護における成人の事例 報告者 なるみ作業所 須澤氏	ZOOM	13事業所 15名
第3回	12/17(金) 13~15	グループワーク 自閉症・行動障害を理解する～冰山モデルを知り、支援に生かしてみよう～ 講師 あいぼ奥山氏	ZOOM	13事業所 18名

### 次年度に向けての課題

1. 各事業所の職員の参加者を広げる。
2. 定例会に参加しやすい時間帯を検討していく。

## 2021年度 防災部会 活動報告

メンバー：緑区福祉課、同支所区民福祉課、総務課防災担当、協議会各部会選出の担当者、緑区社会福祉協議会、名古屋みどり災害ボランティアネットワーク、当事者2名、緑区基幹センター  
 会議：2ヶ月に一回 オンラインにて開催

### 【会議・研修】

		議題	場所（区役所内）	出席者
1	第1回 5月25日（火）	今年度の緑区の防災訓練の実施について 今年度の活動計画、BCPの策定について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹センター	12名
2	第2回 7月27日（火）	防災訓練について 防災対策についての事業所意見交換会について 福祉避難所について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹相談支援センター	12名
3	第3回 9月28日（火）	防災訓練について 福祉避難所について 防災対策についての事業所意見交換会について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹相談支援センター	12名
4	第4回 11月30日（火）	災害対策についての事業所交流会について 地域課題について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹センター	13名
5	第5回 1月25日（火）	災害対策についての事業所交流会について 地域課題について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹センター	13名
6	2月16日（水）	災害対策についての事業所交流会 名古屋市における福祉避難所の取り組み・区内災害対策アンケートの報告・シンポジウム報告「なるみ作業所、生活介護ばすてる、放デイあいんぐ、風の会」	オンライン（ZOOM）・ 緑保健センター	37名
7	第6回 3月15日（火）	BCP講演会振り返り 今年度の活動の振り返り、次年度の活動について	オンライン（ZOOM）・ 緑区障害者基幹センター	11名

### 【今年度の成果】

- ① 区内の避難訓練への参加 **区内の訓練が中止になったため、実施できず**
- ② 事業所における災害対策についての交流→2/16 37名参加で実施
- ③ 福祉避難所についての理解を深め対策を考える  
令和3年5月に災害対策基本法改正に伴い、定例会内でも変更点の確認などを行った
- ④ 「自助」への動機付けを啓発する  
防災かわら版 3号を発行

今年度をもって3か年開催してきた防災部会はいったん終了とする  
 継続していく課題として

- ・区内の防災訓練への参加推奨
- ・行政が進める防災の取り組みや、福祉避難所・個別避難計画、BCPなどについての情報共有
- ・関係機関・関係者（区役所総務課や災害ボランティアネットワークなど）との連携

今後は、部会に参加して議論してきた各事業所さんや基幹センターから発信を続けていく予定

## 2021 年度 地域生活支援拠点 活動報告

今年度から、「特定相談への再委託」、「医療的ケア受け入れ補助」、「拠点事業所の登録内容の緩和」等の取扱いの変更がされた。ひきつづきコロナ禍における影響。

### 1. 相談 基幹センター+特定相談 12 ヶ所

### 2. 緊急時の受け入れ・対応（お助けショートステイ）

#### ① 登録・利用状況等

年度	2019	2020	2021	備考
登録数	19 件	12 件	14 件	
再委託			10 件	カモミール・ふわふわ・希望の家、区外びほっと・どうとく
延べ利用者・数		8 名 71 日 (19.4%)	8 名 36 日 (9.8%)	

ケース 発達 13 歳「緊急/母の体調不良、2 週後通常短期」（緊急）

知的 14 歳「母体調」

知的 59 歳「本人骨折し介護困難の入浴対応」

知的身体 32 歳「主たる介護者が高齢者の介護」

知的 20 歳「一人親家族の仕事」との理由

※身体 29 歳（緊急/家族暴力で他のショート）空きなく天白「通常短期」で対応

不可理由 「お助け期間を過ぎた」「他区」「空きなし通常ショート対応」等 3 件。

基幹相談 ひととまケース 50 代女性 身障・車いすユーザー 留置カテーテル → 家族入院検査の予定が暫く先と分りケア会議を開催。本人包括ケア病棟希望し、その後実際利用される。

#### ② 更なる受け入れ促進

医療的ケア・行動障害・遷延性意識障害・高次脳等 → まだ

#### ③ 広報活動

拠点事業所が協議会運営委員会へ参加

21/12 天白養護学校・緑区特別支援教育連絡会への訪問

22/1 マップ配布に合わせて、区内事業所・病院等 210 件へ市のパンフレット郵送

22/2 協議会運営委員会にむけて、ニュース発行とビデオで拠点事業所を紹介する

#### ④ モニタリング実施

6/46 件が、ホーム等へ入居。

### 3. 体験の機会・場（お試しグループホーム）

利用状況について

年度	2020 年度	2021 年度
延べ利用者・数・稼働率	22 名 132 日 (36.1%)	5 名 38 日 (10.4%)

体験後 GH 入所された方もある。現在の利用者は、特定相談点いているケースで、支援経過を見て、体験を進め為、基幹がかかわる事はない。

計画がついていないケースや、サービス利用していないケースへの働きかけが課題。

4. 専門的人材の確保・養成

2021 年度から強度行動障害部会を開催。

5. 地域の体制づくり

① 医療的ケア児・者の受け入れ

区内 4 包括ケア病棟 → 事例を集めてきた。2022 年度アンケートを実施し懇談を計画。

医療連携により受け入れられる方 → 拠点事業所の法人内訪問看護ステーションとの連携など

その他の方 → 通院先への入院（大同病院・大府有床クリニック・東名古屋病院・太郎花子など）

児童・医療依存度の重度の方 → 今後医療的ケアコーディネーター・医療的ケア児支援センターとの連携が課題

② 行動障害 →

③ その他

④ グループホーム・短期入所事業所との体験や緊急ショートとの連携あり方課題

6. 以上「1～5について 面的に整備していく（名古屋市）」について

7. その他

① 拠点・基幹調整会議について

2 カ月に 1 回開催。

② 名古屋市への報告・請求について

今年度から月毎に実績報告。

請求は 4 半期毎。

再委託料の支払い 月毎で振り込みを行い、事業所に通知。

③ 名古屋市連絡会と 16 区の状況

□連絡会（10/18）リモート開催。「お試 GH の利用勧奨」「同利用時の体験内容の工夫」「お助け SS 事前登録者のその後の状況把握」「更なる受け入れ促進」 3 月開催アンケート実施 次年度 5 月頃開催予告

□設置状況

2021 年度	2022 年度
東千種 1 西中村 1 南南 1 緑 1	東千種 1 西中村 1 中川 2 南南 2 緑 1
北北 1 西 1 守山 2 東 1 ※4 カ所整備	北北 1 西 1 守山 2 東 1

④ 南ブロックについて

令和 4 年 4 月にゆたか福祉会の拠点事業所が整備される。瑞穂区は令和 5 年度に整備予定。令和 6 年からブロック制になる。

## 2021年(令和3年)度 障がいの重い人の支援を考える会のまとめ

南区・緑区の重症心身障がいのある大人と子供が利用する事業所の集まりである。昨今は医療的ケアについての話もあり、元々訪問看護ステーションや病院看護師もメンバーだったが、意見を求め共に考え合うことが増えている。ただ、事業所としての話もするが、障がいの重い人にとって、あるいは地域での暮らしについてどうなのかという点を外さないように努めている。

昨年度に引き続きコロナ感染症対策として、開催はすべてオンラインにて行っている。昨年度末アンケートを取り、メンバーを増やす事や内容を見直すこと、開始時間を30分繰り下げ全体も2時間から1時間半にする事(9月～)となった。

### 昨年度からの課題と考える会が取り組む内容

- ・防災、特に医療的ケアのある人や避難できない人達について
- ・人手不足・人材育成
- ・医療との連携・医療的ケア児支援法案・3号研修
- ・インクルージョンの研修
- ・面的整備・地域生活の維持

毎月の開催内容(基本毎月1回火曜日 13:00(8月まで9月以降)13:30~15:00 全てオンライン(会場であれば緑区区役所))

	日程	内容
90回	4月13日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 今年度のテーマ決め 映画「普通に死ぬ」、名古屋市医療的ケア児支援サイト e・ga・O の紹介
91回	5月11日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 今年度のテーマ・防災・人手不足・医療・インクルーシブ・療育センターとのつながりについて
92回	6月8日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 防災、南区避難所体験より コロナワクチン接種、医療的ケア児等支援法、医療連携加算、胃瘻コネクタ ー問題
93回	7月16日(火) 13時~15時 緑区役所第1会議室	各事業所の近況・報告 防災、考える会としての視点・電源、物資、知っている事業所での連携、看護師、LINE グループ、発電機
94回	8月10日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 防災・緊急避難所と避難所の違い、個人のフローチャート作り、事業所は考えているが自宅はどうか、事前把握
95回	9月7日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 今井看護師初参加 防災・9月5日日本小児在宅医療支援研究会内容報告 避難のモデルケースはどうか→アンケート 福祉避難所 医療的ケア児法の勉強会について
96回	10月12日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 さくらそう深瀬さん初参加 防災・避難に関するアンケート・事業所に通う方9ケース→親が高齢、電源、地域の避難所を知らない夜間の避難は難しい 物資の補充→更に2ケー

		スで検討 医療的ケア児支援法・名古屋市医療的ケア児実態把握調査より
97回	11月9日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 ねーぶる元田さん初参加 バクロフェン髄注療法 防災・地区防災カルテを利用し、考える 医療的ケア時6歳以下は緑区が人数が多い 各区医療的ケア部会
98回	12月7日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 防災・地区防災カルテから各事業所の状況確認 2月100回目企画
99回	1月11日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 防災・2月の南区・緑区の防災部会への出席 医療的ケア児支援センターについて、新聞発表
100回	2月8日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 まいゆめ上野さん初参加 医療的ケア児支援センターについて大同病院から 医療的ケア児等コーディネーターとの連携
101回	3月1日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 医療的ケア児支援センターについて、コーディネーターの役割、勉強会開催 南区新規拠点紹介、学校看護師

メンバー 令和4年3月現在

25事業所 …子ども関係5 大人日中系6 居宅介護3 訪問看護1 病院2 基幹2 相談6

打ち合わせも月1回開催…緑区基幹支援センター カモミール ひととま

#### まとめ

・コロナ禍も ZOOM 会議への以降ができていたので、毎月開催はできている。しかし、中々人が集まらず、アンケートを取り、時間などを変えて継続してきた。また、各メンバーが声をかけてくれたことで新しいメンバーも増えている。

・防災をテーマに進めてきたが、難しいテーマであり、一人一人条件が違う為、モデルを立て避難訓練をすることはできていない。ただ、福祉避難所がすぐに開く事や、地区防災カルテで自宅や事業所の災害時の弱い点なども確認ができた。また、ひとり一人について考えた時に、親の高齢化や本人の体重によってやはり逃げられないという事も浮き彫りになった。事前に自分達家族がどこに逃げるのか、逃げる途中の道は大丈夫か(液化化や渋滞)何を持ちだすのか等、やっておくことは明確になってきた。医療的ケアの人達にとっては電源確保が大きな課題であるし、その為に充電器を買いそろえている家庭もある。また物品のストックも確認が必要である。こういったことは昨年度に引き続き課題点として挙がっている。

・考える会の事業所間で、日頃通ってなくても発災当初の避難先になるという点は話が進んでいないため、今後考えていくべきことの1つである。

・昨年6月に成立した医療的ケア児等支援法についても知り、その後医療的ケア児支援センターに大同病院が選ばれたことで、考える会からの要望や連携についても話し合った。センターとの連携は、相談支援が持っている医療的ケア児等コーディネーターが実際の役目を担うのだと思うが、障がいの重い人の地域での暮らしを支えるため考える会も6歳以下のこのヘルパー利用など、課題を提示しながら一緒に考えていけたらと思っている。

・9月以降、時間が13:30～になり、各事業所の困りごと話し合えるようになった。また、他にも変更が必要であれば考えていきたいし、各事業所の情報に触れ、新しいことを知ることもできている。医療的ケア児支援センターについても、これまでの蓄積で3号研修の件など伝えることができ、長く続けてきた意味はあると感じた。今後も変わらず障がいの重い人の暮らしについて、暮らしの事も関わる人達と話し合っていきたい。